

発 言 者	発 言 要 旨
井上(航)委員	<ol style="list-style-type: none"> 1 自治体クラウドについて、県内最大手であるAGSのクラウドサービスを和光市が導入したと聞いている。県としては、埼玉県IT推進アクションプランの中で、町村情報システム共同化やバックアップ機能の推進を行うとのことだが、新聞報道によると、AGSも県内自治体へ順次拡大を図り、5年で20団体に導入するという目標があるとのことである。県のプランを上回る可能性があるが、県はこのような動きをどのようにみているか。 2 オープンデータ化の推進で大切なのは、それをどのように使うかというビジョンを持っていることである。データが上手に活用されるアプリケーション開発のアイデアコンテストを行政が実施するなど、行政主導の具体的な推進ビジョンはあるのか。 3 県のホームページは、県民の視点に立ち、見やすさ、分かりやすさを今後とも追求してほしい。それに加え、二元代表制の理念を反映させ、トップページの知事のバナーの隣に県議会のバナーを置くなどの配置をしてみたいか。今度のリニューアル時に検討して頂きたい。 4 サイバーパトロールやネット防犯パトロール等の取組の中で、本年10月から、全国的にインターネット上の不適切な書き込みを見つけ、書き込んだ本人に直接会って補導するサイバー補導に取り組んでいると聞いているが、本県でも実施しているのか。また、「サイバー補導」は今後も継続される取組なのか。 5 佐賀県武雄市では、タブレットを使い反転教育を行うなどの事例もあるが、埼玉県IT活用推進プランにおいては、教育分野におけるIT活用が触れられていないのではないかと聞いているが、本県でも実施しているのか。また、「サイバー補導」は今後も継続される取組なのか。 6 インターネットを活用した選挙が解禁され、その活用について大学生なども興味を持っている。しかし、プランにおいて、インターネット選挙には触れていないように思えるが、その点の考えを伺いたい。 7 千葉市で実施している「ちばレポ」のように、スマートフォンを利用した市民参加型の情報共有システムを検討すべきではないか。広聴にITをもっと活用すべきではないか。
情報システム課長	<ol style="list-style-type: none"> 1 自治体クラウドについては、県では町村を対象に18団体を応援している。市は、一般的に財政基盤がしっかりしており、それぞれで自治体クラウドに取り組むことが多い。今後、社会保障番号制度を支える基盤としてマイナンバー制度が始まる場合、県・市町村共同でクラウド技術を活用したシステム化を考えているところである。参加団体に多くのメリットがあるように進めていきたい。 2 現在、九都県市首脳会議における取組の中で、「観光」と「防災」に関して、データを活用したアプリケーションの開発などを検討している。本県においても、県のデータを活用したアプリケーション開発のアイデアコンテストを実施するなどの具体策を今後検討して

発 言 者	発 言 要 旨
情報システム課 長	いきたい。
広聴広報課長	<p>3 現在のホームページでは、全体のデザインを考慮して議会へのリンクは文字だけのものとなっている。議会のホームページは、極めて重要なものであり、今後、議会事務局と打ち合わせしながら検討していきたい。</p> <p>7 県の広聴にITを利用することは大切なことであり、現在は県政サポーターや知事への提言などで県民の意見を集めている。スマートフォンの普及など、IT技術の進歩に対応した双方向性のある情報共有を図るには、一定のシステムが必要であり、千葉市の「ちばレポ」を詳しく調べて検討する。</p>
サイバー犯罪対策課長	<p>4 サイバー空間においては、児童が被害に遭いやすい状況にあることから、サイバー犯罪対策課では、県内の学校等に対し、様々な情報セキュリティ講演を実施するとともに、本年9月から開始したサイバー犯罪対策経費事業等を活用し、県内の学校を中心に広報啓発活動を実施している。なお、サイバー補導に関しては、警察本部生活安全部少年課で実施し、現時点で継続中である。</p>
高校教育指導課 主席指導主事	<p>5 教育の分野については、埼玉県IT推進アクションプランの中に「21世紀にふさわしい学びと学校の創造」という取組がある。具体的には、平成23年4月28日に国が作成した「教育の情報化ビジョン」を参考にしながら、埼玉県5か年計画及び埼玉県教育振興基本計画により、児童・生徒の情報活用能力の育成、ICT環境の整備を推進していくものである。</p>
情報システム課 長	<p>6 インターネット選挙については、現在のプラン案に記載はない。しかし、ソーシャルメディアによる選挙に関する情報発信については、継続して実施していきたいと考えており、ツイッター、フェイスブックなどによる情報発信について、選挙管理委員会と調整しながら、このプランへの記載の追加も検討していきたい。</p>
井上(航)委員	<p>1 ホームページのトップページにおいて、神奈川県や群馬県では、知事のバナーの隣に県議会のバナーがある。二代表制ということ踏まえるのなら、このような配置が自然なのではないか。</p> <p>2 サイバー補導は今後も継続されるのか。</p> <p>3 インターネット選挙に関して、選挙管理委員会は独自にフェイスブックやツイッターを利用しているが、そのような取組もプランに反映されるのか。</p> <p>4 海外では、市民やNPOがアプリを作っている。行政が何か仕組みを作るというのではなく、一般の市民が新たな仕組みを作るのが</p>

発 言 者	発 言 要 旨
井上(航)委員	I Tの最先端の流れだと思っている。メールで行政に意見が届くという段階から、さらに一歩進んだ段階のプランを望んでいるので、それに向けた決意を聞きたい。
広聴広報課長	1 ホームページのトップページは埼玉県の顔であり、様々な情報がきちんと整理されていなければならない。そしてまた、県議会のホームページへのリンクをどのように位置づけるかは重要なテーマである。早急な変更はシステム上難しいが、今後、議会事務局と調整しながら、検討していきたい。
サイバー犯罪 対 策 課 長	2 サイバー補導は、現在も継続して実施している。
情報システム 課 長	3 インターネット選挙については、選挙管理委員会と調整して、プランに反映するようにしたい。
広聴広報課長	4 双方向性のある広聴活動は、一定のシステムを組む必要がある。まずは「ちばレポ」についてよく調査し、どういう方法が最善かを検討していきたい。